

2025 年 4 月 1 日

## 2024 年度「多摩地帯市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 R. I. La  
代表者・役職名 氏名 理事長 尾崎美佐子

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクトの名称

狭山丘陵、多摩丘陵の里山におけるナラ枯れ対策を含む里山保全事業

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。 会員数など。180文字程度まで)

この法人は、主に東京都及び周辺の地域に対して、環境の保全を図る目的における環境調査の実施と環境に関する教育事業を行い、生物多様性の保全を確保出来る環境を作ると共に、子供達の育成、まちづくりに関わること、並びに地域社会のコミュニティーに関わる様々な事柄に携わることによって、環境に配慮し、その地域に生息する様々な生き物たちと共に存できる持続可能なまちづくりに寄与することを目的とする。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

現在急激に進行しているコナラなどドングリの実がなる木の立ち枯れ現象で、狭山丘陵並びに多摩丘陵エリアでは、殆どのコナラ、クヌギなどの樹木がその影響を受け、私達が委託管理している里山だけでもコナラの 30%程度が立ち枯れを起こしてしまっている。ナラ枯れによってコナラ、クヌギなどのドングリの木が立ち枯れしてしまう前に、カシナガが寄生し、媒介するカビ菌が樹木の水管をふさいでしまうことを未然に防ぐ措置を実施し、野生動物の貴重な食料の元であるドングリの木を一本でも多く保全していくことをこのプロジェクトの目的と致します。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ・カシナガがすでに寄生し、樹木からカシナガが木を削った後である「ラッシュ」と呼ばれる切子が落ちている樹木は、木の根元の土壤に数か所の穴を掘り、その穴に納豆菌が付着する糞と、納豆菌を搬送する目的の竹炭のパウダーを詰め、さらには納豆菌やイースト菌、酵母菌の発酵液であるえひめ A1-2 を注入し、木の水管からカシナガが媒介したカビ菌のエリアまで吸い上げさせ、水管をふさぐカビ菌と納豆菌他有益菌を拮抗させることによって、樹木の水管を守る措置を実施する。
- ・いまだにカシナガの寄生が見られない樹木には、樹木の根元に針葉樹のチップをまき、その針葉樹から揮発するカシナガが嫌がる成分によって、カシナガの寄生を防ぐ対処を行う。さらには、すでにカシナガの寄生を受けても尚樹液の発生をしているような、すでにカシナガの免疫を保有していると判断されるコナラの木にトラップを設置し、再度その木に寄生しようとする大量のカシナガをトラップによって捕獲する試みを実施する。
- ・コナラの樹木の成長並びに里山全体の環境を改善させ、樹木の免疫機能を高めていくために土壤を固くしてしまう可能性のあるはえているクマザサを除去して、すでに倒木となってしまっている樹木を撤去し、その樹木を利用して斜面地となっている場所に「シガラ」を設置して里山の保水力を高め、土壤菌の発生を促し、土壤の免疫力を高める方策を施す。
- ・当該ナラ枯れ対策について、その対処方法と称する材料、えひめ A1-2 の作成方法などを動画撮影を実施し、YouTube にあげる事で、広く日本中のナラ枯れ対策として、その方法を共有していく。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

私たちが助成金の支援を得て、ナラ枯れ防止の対策を試みた里山手では、作業を始める前の段階においては、里山内でコナラ、クヌギなど所謂どんぐりの木の 80%、約 120 本からカシナガ虫の侵入を示す「ラッシュ」が発生しており、ラッシュの出ている樹木においては、根本に藁と竹炭をすり潰したものをすき込み、カシナガ虫の入り込んだ穴と根本にえひめ A1-2 の噴霧を実施した。さらには、ラッシュが出ていない樹木には、トラップを設置し、成虫の樹木への侵入を防ぐ処置をした。その結果、処理をした樹木の内、ナラ枯れが発生しかれてしまった木は、わずかに 2 本だけ、残りの樹木は立ち枯れを回避し、現在でも健全な状態で生育している。ちなみに私共の作業した隣の里山では、コナラ、クヌギの 50%が立ち枯れしてしまった。これらの結果より、私たちのナラ枯れ対策の方法が明らかに効果があり、雑木で構成される武蔵野の里山において、効果を有することが確認された。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今後は、今回の結果を踏まえ、里山を有する市町村や、里山を所有する地権者などに対して、当該処理の方法を提言していくと共に、自ら管理する里山では、その後のコナラ、クヌギなどの経過観察を実施し、カシナガ虫が侵入してから 1 年間以上経過した樹木は、その後免疫を得てかれることがないと言われる学説について、本当にカシナガ虫からの脅威を防ぐことができているのどうかの検証を実施していく。4

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。



